

HEART NEWS

2018年5月1日発行

Vol. 31

大阪市立総合医療センター循環器センター

<http://cardiovasc-ocgh.sakura.ne.jp>



新しい年度に入り最初のハートニュースの発行です。

循環器内科は、本年の4月から齋藤聡男先生が守口生野記念病院から、林雄介先生が大阪市立大学医学部附属病院からスタッフとして来られ張り切っておられます。

また心臓血管外科では、末廣泰男先生の後任として青山孝信先生が済生会野江病院から副部長として、新たに加わりました。

循環器内科、心臓血管外科とも若手のレジデントも加わり、これまで以上に活気のある循環器センターとなりますので、今後ともご支援よろしくお願い致します。



大阪市立総合医療センター 循環器センター長

循環器内科部長

成子 隆彦

循環器内科のご紹介

循環器内科は、循環器センター直通電話（ハートライン）、循環器センター広報誌（ハートニュース）、循環器センターHP、ハートカンファレンス等の地域連携研究会を通じ地域医療機関との連携に努めております。さらに今年度は以下の分野を重点的に取り組みたいと思います。

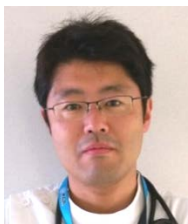
1. Structural Heart Disease(SHD)に対する治療：SHDとは、大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症など、今まで外科治療でしか治療しえなかった疾患に対してカテーテル治療を行うことを指します。当院では、大動脈弁狭窄に対し、経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation)を2016年4月から開始し、2018年4月末までに90例を大きな合併症なく施行しています。本年は、僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術(Mitral Clip)の導入に向けて準備を行いたいと思います。
2. 不整脈治療の充実：アブレーションに関しては、心房細動症例が増加しております。2015年11月よりクライオアブレーションを導入し、2年が経過しましたが、成績は単回治療で80%以上と良好です。また、リードレスペースメーカーや皮下植込み型除細動器の導入を積極的に行って行きたいと思います。
3. 末梢動脈疾患の包括的治療：末梢動脈疾患、特に重症下肢虚血は糖尿病や透析患者に多く、今後、疾患の増加が予想されます。当院の総合病院としての機能を生かし糖尿病内科、腎臓高血圧内科、総合診療科、皮膚科、形成外科、整形外科と連携して治療に努めてまいります。
4. 心不全パスの充実：超高齢化に伴い、近年増加している心不全患者の再入院を、減らすことを目的として、昨年より定期的に開催しています「大阪心不全地域医療連携の会」を通じて、心不全患者の管理を、医療機関の枠を超えて地域全体で治療する体制を本年も発展させて行きたいと思います。



副部長
阿部 幸雄



副部長
松村 嘉起



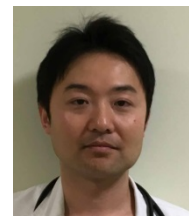
副部長
松本 亮



医長
占野 賢司



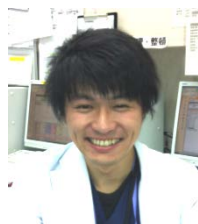
医長
仲川 将志



医長
齋藤 聡男



医長
林 雄介



レジデント
松下 司



レジデント
加川 俊介



レジデント
中達 賢一



レジデント
野村 菜々香



専攻医
加島 裕美



専攻医
豊田 なつみ

循環器内科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	阿部	松村	占野	仲川	成子
午後	阿部	松村		仲川	成子
	占野(ペースメカ)				

地域初診外来

	月	火	水	木	金
午前	成子	齋藤	阿部	成子	松本
					林(不整脈)
午後			占野(不整脈)		松本(TAVI)

心臓血管外科のご紹介

心臓血管外科は循環器センター直通電話（ハートライン）を通じて、24時間対応可能な診療体制をとっております。

また、当院の救命救急部、循環器内科とも密に連携し【大動脈センター】を運用し、急性大動脈症候群（急性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤破裂）に対する外科治療の充実をはかりたいと思います。

さらに今年度は以下の項目にも取り組んでいきたいと思っております。

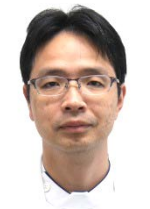


部長 佐々木康之

- 1) スtentグラフト治療の充実：高齢者が罹患することの多い胸部・腹部大動脈瘤に対しては、開胸・開腹を行わない低侵襲治療であるstentグラフト内挿術を積極的に施行してまいります。
- 2) 弁膜症治療の充実：大動脈弁狭窄症(AS)に対して、2016年の4月よりTAVI（カテーテル的大動脈弁挿入術）を行っております。また、今後は大動脈弁疾患や僧帽弁疾患に対してより低侵襲な小開胸による弁膜症手術も充実させてまいります。
- 3) 冠動脈疾患の外科治療の充実：重症3枝病変（左冠動脈主幹部病変を含む）に対して、完全血行再建（3-4箇所以上のバイパス術）を積極的に施行しております。また、重症の心拡大例（虚血性心筋症、低左心機能症例）に対しては左室縮小術（Dor手術、SAVE手術）にも取り組んでおります。



副部長
青山 孝信



副部長
阪口 正則



医長
尾藤 康行



レジデント
西矢 健太



レジデント
因野 剛紀



レジデント
新田目 淳孝

心臓血管外科外来担当医のご案内

	月	火	水	木	金
午前	青山	佐々木	阪口	佐々木	尾藤
午後	青山	佐々木	阪口	佐々木	尾藤

診察予約（地域医療連携室）

TEL:06-6929-3643 FAX:06-6929-0886

平日 8:45～20:00

今号の循環器日記

我々循環器センターでは、臨床・教育・研究いずれもが欠けることのないように力を入れております。国内学会をはじめ国際学会でも発表を行ったり、教育プログラムの運営を行ったりしています。

写真は、3月に開催された日本循環器学会学術集会で撮影したものです。我々医師も、座長に、あるいは、演者にと頑張ってまいりました(写真①、加川医師の発表)。そして今回の特色は、ICU (CCU) 看護師からも素晴らしい研究発表があったことです(写真②、岩本看護師ほかの発表)。CCUを退室後、再び悪化してCCUへ再入室することを予測する因子を調べました。糖尿病があることとリエゾン介入しなければならぬような精神状態悪化があったことの2つが独立した予測因子でした。これらを有する患者には、さらなるケアあるいは介入が必要であるとの考察がなされました。また、近隣の病院やクリニックと協同して進めている心不全地域医療連携に関するセッションが開催されました。「大阪心不全地域医療連携の会」のコアスタッフである竹谷クリニックの竹谷先生と北野病院の中根先生が、それぞれ座長と演者を務められ、大変活発なセッションとなりました(写真③)。先生方のおかげでさらに輪が広がりそうです。

院内で努力することはもちろんですが、院外で学んだことを持ち帰り、日々の臨床に活かして患者さんや先生方、地域医療のお役に立てるように日々努力しております。今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



写真①



写真②



写真③

当院循環器内科、心臓血管外科は近隣の先生方からの循環器救急疾患をさらに迅速に受け取ることができるようにするため、循環器センター直通電話(ハートライン)を設置しております。

ハートライン(循環器センター直通電話)

06-7662-7979

その他の場合は、御面倒ですが、

06-6929-1221(病院代表)から呼び出して下さい。